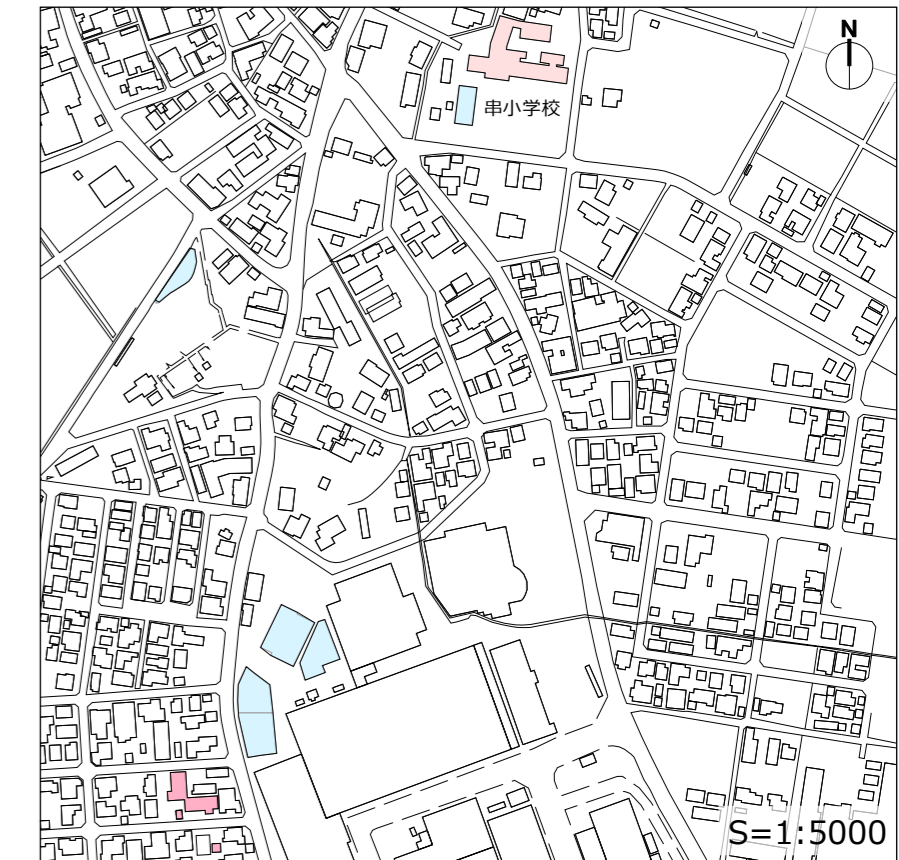


# シェアハウスを中心とした 高齢者とこどもの生活・交流拠点



## 周辺敷地



## 研究背景

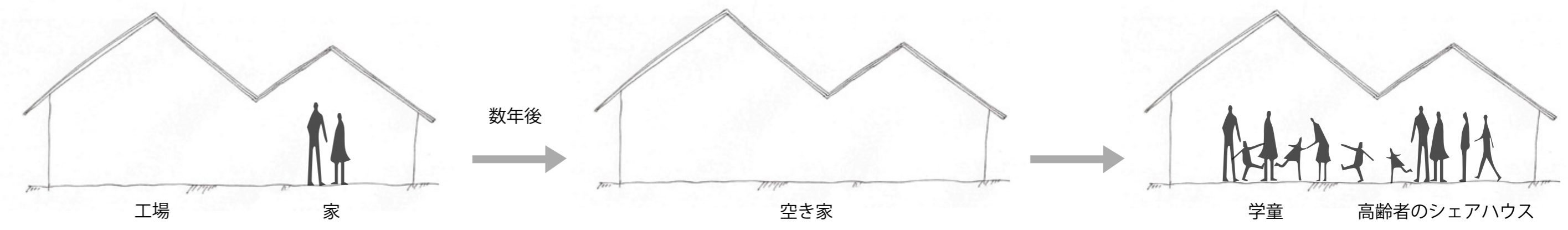
私は、母が定年を迎えた頃に住む「高齢者のシェアハウス」と地域の子ども達が通う「学童」を併設し、シェアハウスを中心とした高齢者とこどもの生活・交流拠点を提案する。

敷地は、今は母の実家の家には祖父母が住んでいるが、祖父母が亡くなってしまった後空き家になってしまうことを想定し、その空き家と工場をリノベーションして生活・交流拠点を作ることを設定している。空き家を活用することで、空き家問題に対する解決法の一つとしての提案をする。

今回は、祖父母が生活している家を、母が定年退職するまでの15年間をかけて現在使われていない場所から徐々にリノベーションしていくことを考えた。その中でDIYでできる部分は、シェアハウスの入居予定者達が自分が住む場所をみんなで作ることで絆を深めてほしいと思う。

## コンセプト

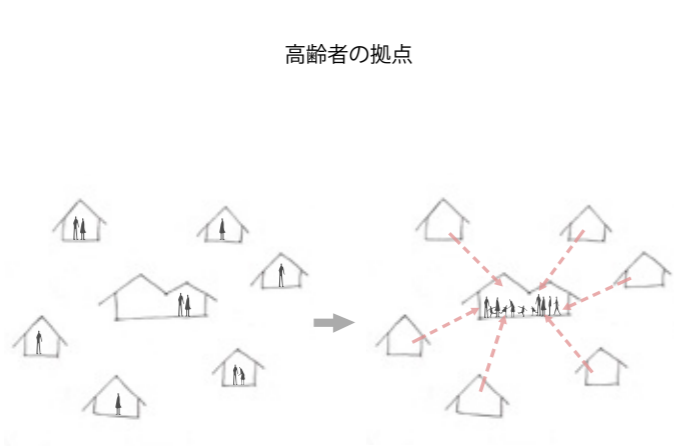
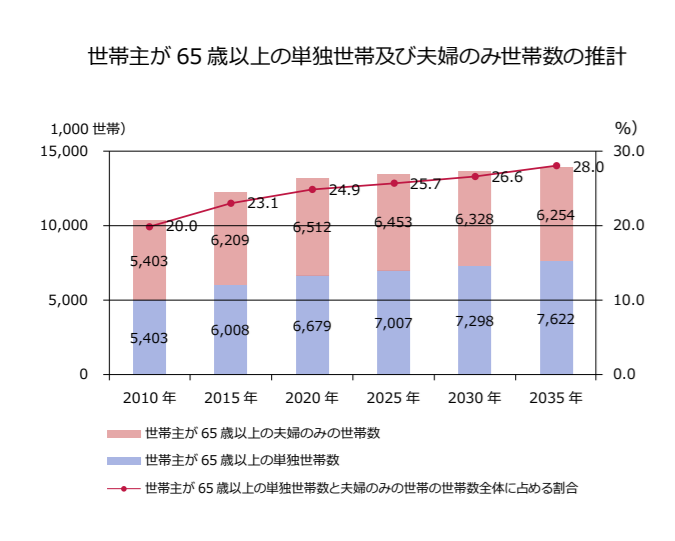
高齢者のシェアハウスと学童を中心とした、高齢者とこどもの生活・交流拠点



## 最終目的

高齢者の過ごし方  
家の場所には、シェアハウスと高齢者の居場所を作る。

2025年までの世帯主が65歳以上の一人暮らしや、高齢者のみの世帯の人口が増加していくことが厚生労働省の調査で分かっている。そのため、高齢者が一人で過ごす時間も増加する。高齢者が一人で過ごすに当たり、ケガや認知症の悪化、孤独死など様々なリスクがある。そんな高齢者が、集団で楽しく過ごし、デイサービスなどのサービスを受けられる場所や高齢者のシェアハウス、地域の高齢者が日中遊びに来て過ごせる居場所を家の場所に設ける。



公表されている介護サービスで、自宅に訪問してもらい受けられるサービスとしては訪問介護、訪問入浴、訪問看護、訪問リハビリ、夜間対応型訪問介護、定期巡回・随時対応型介護看護の5つがある。

この場所では、訪問看護のサービスを利用しながら生活していくことを考えている。訪問看護とは、利用者の心身機能の維持回復などを目的として、看護師などが疾患のある利用者の自宅を訪問し、主治医の指示に基づいて療養上の世話や診療の補助を行う。

工場のある場所に定期的に診療が受けられる場所を設ける。その地域の人達が一箇所に集まり、医療を受けることができるようにしたいと考えている。医者にとっても一箇所に患者が集まることで、一軒ずつ家をまわる必要がなくなり診療もスムーズに行うことができる。

## 高齢者とこども達

工場には、学童と、高齢者とこども達が共に習い事などができる場所を作る。

核家族化や少子化に伴い、地域での繋がりが希薄になった。それは、高齢者においては社会的な役割を担う機会が減少することにより、そのことが孤立化、生きがいの喪失となっている。こどもにとっては多世代との交流が減少することにより、社会性を育む機会が失われている状況にある。

高齢者とこども達が交流することで、高齢者は生きがいを見つけ、こどもは生活の知恵や思いやりの心を持つ、など様々なメリットがあります。高齢者とこども達が関わることで、高齢者とこども達の親とも自然に交流が生まれ、地域としての連携も強くなると考えている。

## 学童

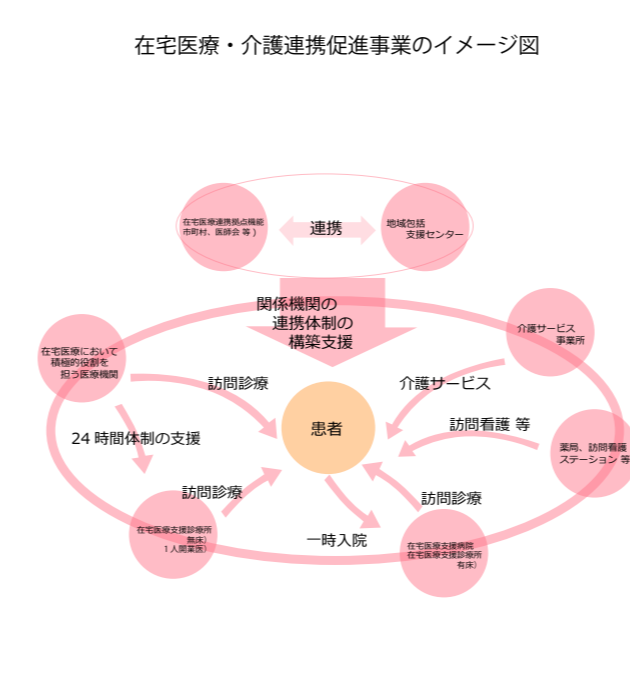
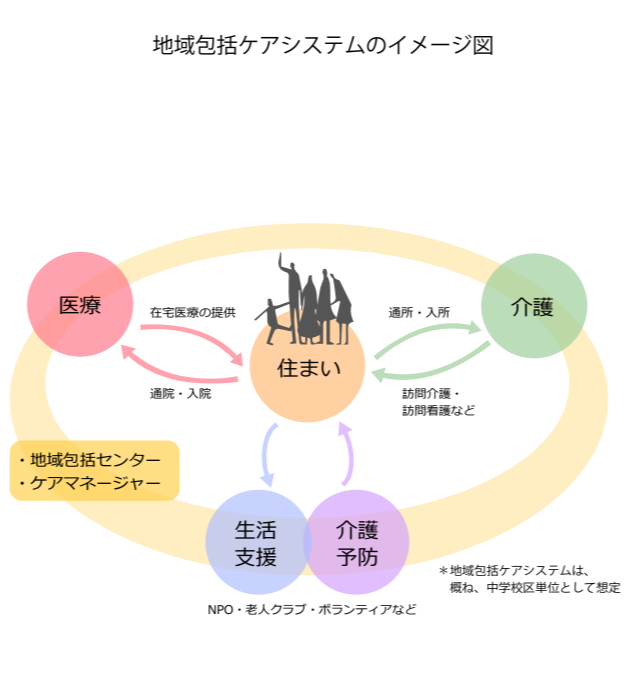
歩いて15分の場所に小学校があるので学童を設け、こども達放課後を一人で過ごすのではなく、高齢者との関わりを通してたくさんの体験ができる場所にしたい。学童は、シェアハウスに住む高齢者が営む。

また、こども達と高齢者が習い事ができる場所やイベントを行える場所をつくり、こども達と高齢者が交流できる場所を設ける。



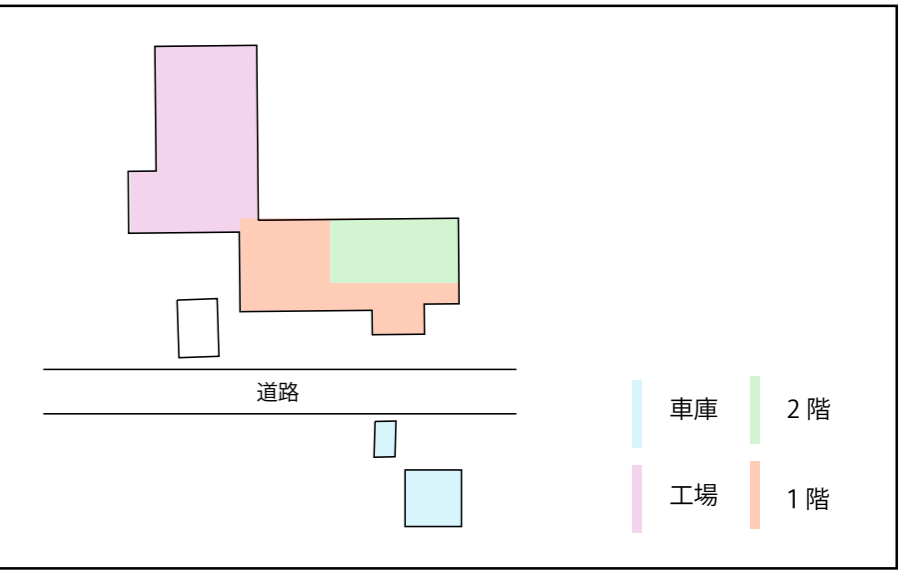
## 地域包括ケアシステムとサービス

団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、地域包括支援ケアシステムが確立される。地域包括ケアシステムの構築としては、重要な要介護状態ともなっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される。このシステムをうまく利用し、サービスをシェアハウスで受けられるようにしたい。



## 15年間の計画

1 2018 脱衣所の改修	4 2021 習い事の部屋	7 2024 2階を減築	10 2027 個室	13 2030 キッチン、ダイニング
2 2019 工場の掃除、整理	5 2022 学童	8 2025 浴室、トイレ、洗面所	11 2028 庭	14 2031 完成
3 2020 畑、花壇	6 2023 リビング	9 2026 完成	12 2029 完成	15 2032 完成

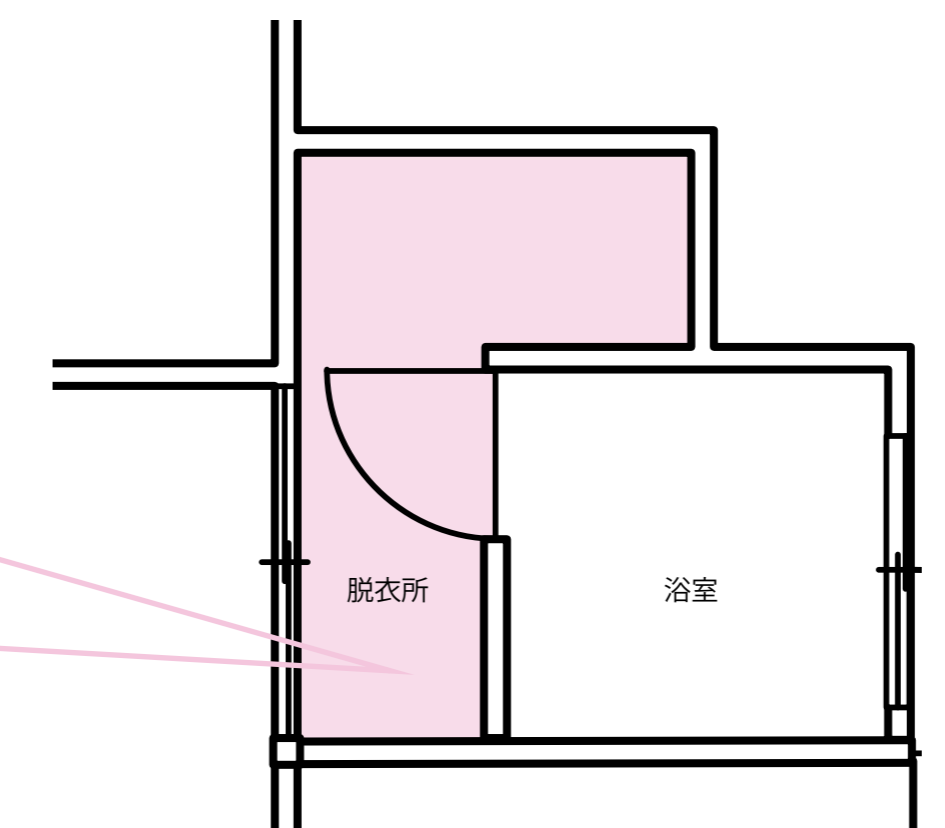


## 脱衣所の改修

1年目の活動として、脱衣所をDIYで改修する。浴室付近は8年目にリノベーションする予定だが、1年目の今年中に、今住んでいる祖父母が一番不便だと感じている場所から始める必要があると考えた。

祖父母は銭湯に行くので浴室を使うことは少ないが、夏場はシャワーの為に頻りに使う。しかし、今の脱衣所はコンクリートが打ちっ放しの上ですのこを渡しているだけの状態になっている。今まではどうにか使っていたが、特に祖父の足が悪くなってきており、すのこでは足元に不安がある。

そこで、打ちっ放しのコンクリートの上からタイルか防水のシートを貼り、歩きやすくしたい。また、浴室のドアが木でできている為、痛んでいるのでドアも直したい。引き戸に変え、脱衣所をできる限り広く使えるようにしたいと考えている。



- ・コンクリート打ちっ放し
- ・すのこが渡してある
- ・ドアが痛んでいる

## イメージ

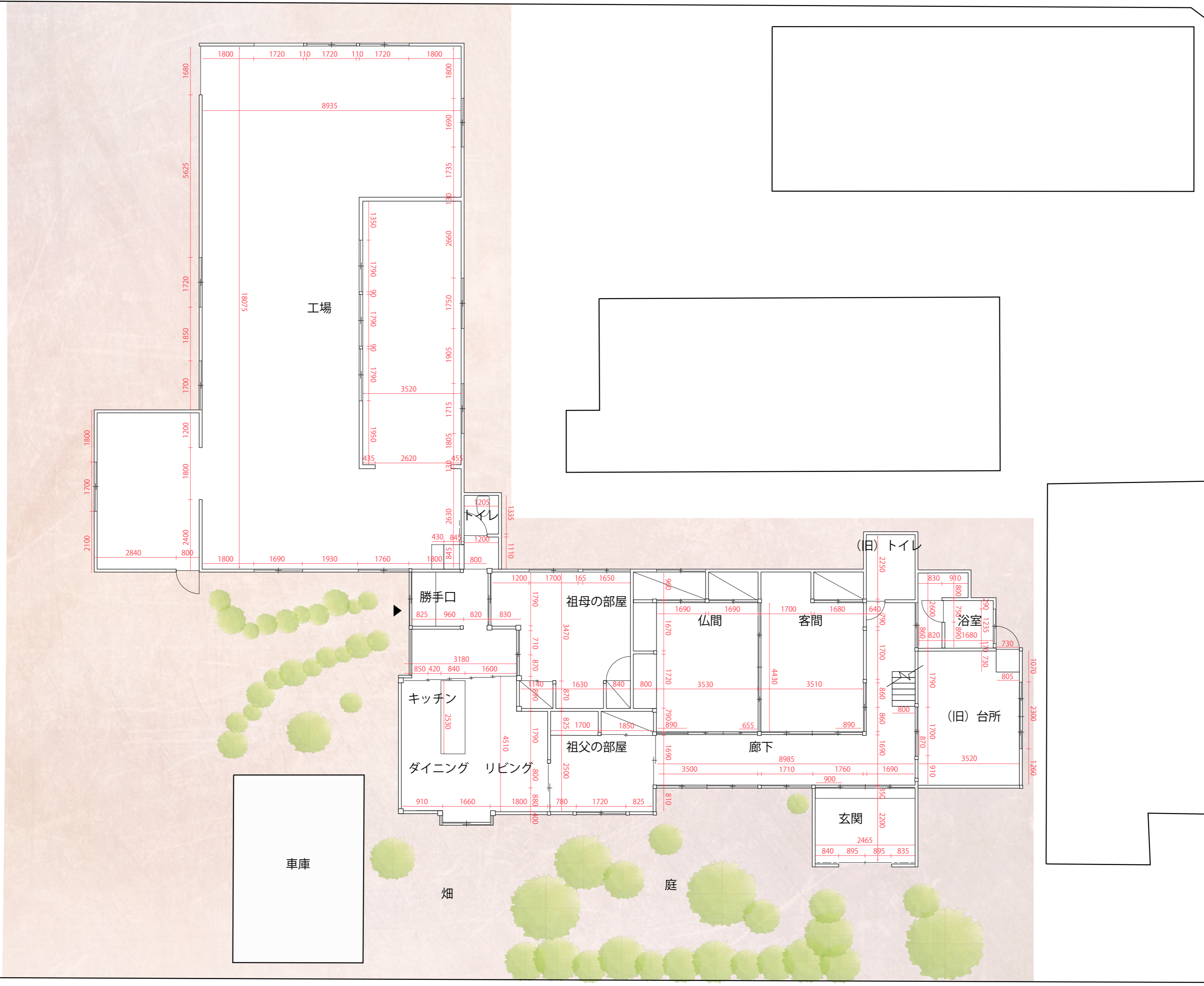


・明るく、暖かい雰囲気の色

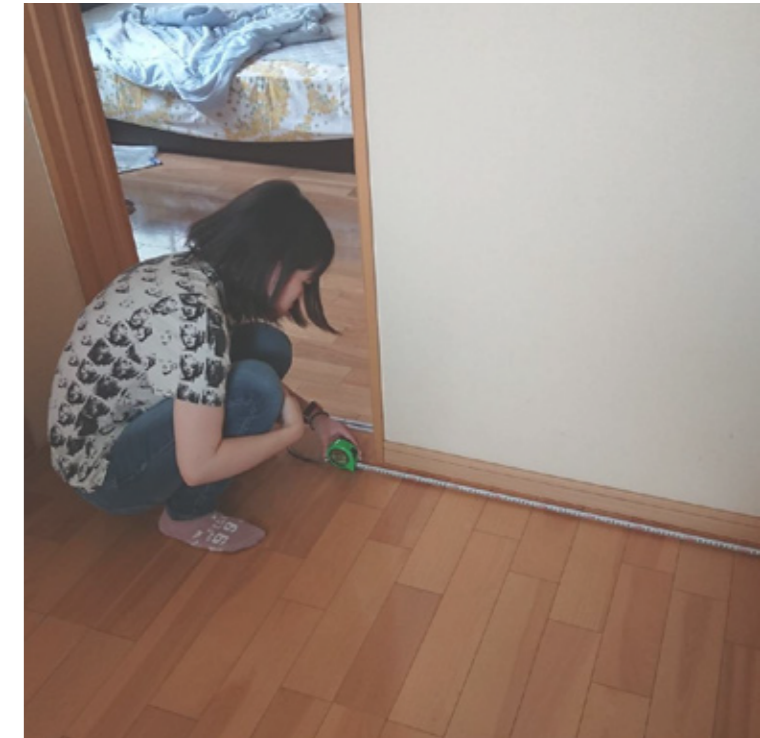


平面図 (住居スペース、工場)

1年目 (現在)



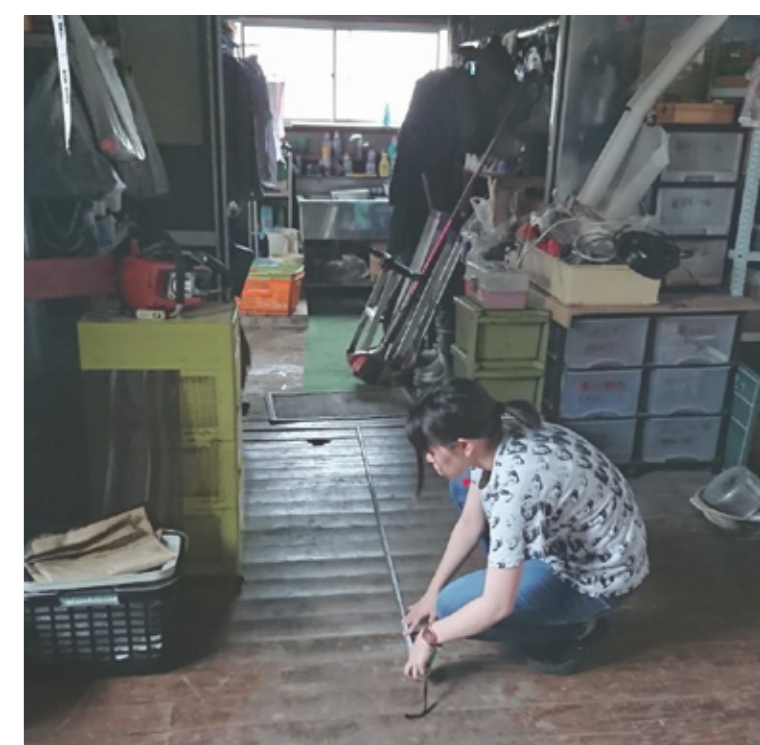
平面図 S=1:100



15年目 (イメージ)



平面図 S=1:100



スケジュール

- 4月 | ・テーマ決め
- 5月 | ・老人ホーム、学童、空き家について調べる
- 6月 |
- 7月 | ・実測、図面化
- 7月 | ・15年目 (完成) のゾーニング
- 8月 | 中間発表
- 8月 | ・脱衣所の改修
- 9月 | ・15年目 (完成) の図面
- 10月 | ・模型制作
- 10月 | ・パース
- 11月 |
- 12月 | ・パネル、概要
- 1月 | 発表
- 2月 | 卒業制作展